

この大災害に小児科医はどう立ち向かうか —適切な初動と情報の共有化を目指して—

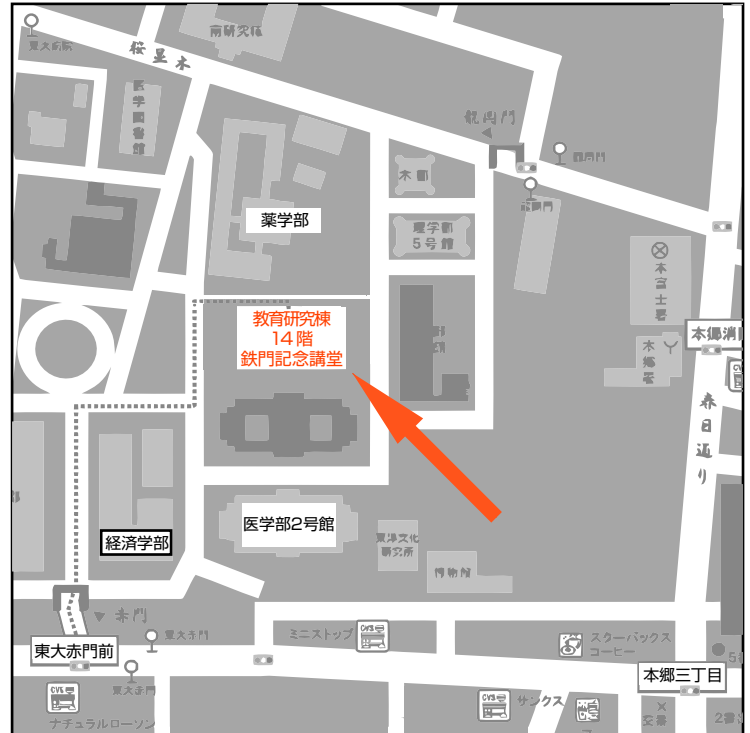
日時:2011年4月17日(日) 13時~17時 定員:280名
会場:東京大学 教育研究棟14階 鉄門記念講堂 専門医研修会5単位

総合司会 高橋 孝雄(日本小児科学会副会長)
挨拶 五十嵐 隆(日本小児科学会会長)

【第1部 大震災と大津波から1か月】13時~14時50分

座長 市川光太郎 北九州市立八幡病院
前多 治雄 岩手県立中央病院小児科

- (1)現地からの報告(15分)
岩手県立大船渡病院小児科 測向 透
- (2)DMAT活動の報告(小児科医の視点から)(10分)
滋賀医大・草津総合病院小児科 野澤 正寛
- (3)先遣隊としての集中治療・小児救急医からの提案
小児救急医学会先遣隊の報告(10分)
都立小児総合医療センター救命救急科 井上 信明
(指定発言)静岡県ドクターヘリによるDMAT
一石巻市立病院の状況(5分)
聖隷三方原病院 岡田 真人
- (4)一般小児科医としての先遣隊派遣の経験から(10分)
北九州市立八幡病院小児救急センター小児科 福政 宏司
- (5)日本小児救急医学会の震災支援活動(15分)
都立小児総合医療センター集中治療科 清水 直樹
- (6)震災時の新生児医療支援の難しさ
-日本未熟児新生児学会震災対策委員長としての支援活動-(15分)
大阪大学総合産科母子医療センター 和田 和子
- (7)討 論(25分)



地下鉄丸ノ内線「本郷三丁目駅」下車 徒歩約10分
地下鉄千代田線「湯島駅」下車 徒歩約15分
地下鉄千代田線「根津駅」下車 徒歩約15分
JR中央・総武線「お茶の水」駅下車 聖橋口から
都バス学01系統「東大構内」行きにて「龍岡門」下車

【第2部 放射線被曝による子ども達への影響はあるか?】15時~16時

座長 水谷 修紀 東京医科歯科大学小児科 横谷 進 国立成育医療研究センター内科系専門診療部

- (1)小児への放射線被曝(15分) 国立成育医療研究センター放射線科 宮崎 治
- (2)当地で経験した原発事故とその影響(15分) 福島県立医大小児科 細矢 光亮
(指定発言)福島県における小児甲状腺被ばく調査(5分)
広島大学原爆放射線医科学研究所細胞修復制御研究分野 田代 聡
- (3)小児の甲状腺への放射線障害 -レボチロキシンナトリウム製剤の供給停止の問題もあわせて-(15分)
国立成育医療研究センター成育政策科学研究部 原田 正平
- (4)討 論(10分)

【第3部 今後の課題となすべきこと】16時~17時

座長 市川光太郎 北九州市立八幡病院 前多 治雄 岩手県立中央病院小児科

- (1)今までの学会活動とこれからすべきこと(10分) 東京大学小児科 井田 孔明
- (2)被災地における子どものメンタルサポート 日本小児心身医学会災害対策委員会副委員長 塩川 宏郷(15分)
- (3)総合討論(第I部、第II部を含めて)(35分)
閉会の挨拶 福永 慶隆(日本小児科学会総務担当理事) 佐地 勉(第114回日本小児科学会学術集會会頭)

※定員を超えた場合は入場できないことがあります ※予定している演者に変更がある場合があります